

# 平成 17 年病虫害の発生と防除

## 農林水産省 消費・安全局植物防疫課

昨年は、1月から3月にかけて冬型の気圧配置が強まり雨や雪の日が多かったことから、麦類などの農作物の生育は遅延する地域が多かった。5月以降の天候は太平洋側を中心に降水量が平年を大きく下回り、少雨・多照となった。このため、果樹では果実の肥大抑制が一部の地域で見られた。9月上旬には大型で非常に強い勢力の台風14号が九州の西岸を比較的ゆっくりとした速度で北上したため、九州では台風による水稻の穂ずれ、もみずれ、倒伏などの被害が発生した。また、9月の気温が高かったことから、九州では乳白粒などの登熟障害が発生したほか、トビイロウンカの発生が多くなり坪枯れが見られ、昨年12月1日現在の作況指数は94となった。しかし、それ以外の地域では登熟が順調に進み、水稻の全国の作況指数は101となった。本年の病虫害防除対策については、現在、様々な検討が進められているところであるが、病虫害防除対策の検討資料として、昨年公表された気象庁資料、各県の発生予察情報および各種統計報告を基に、昨年の気象経過、主要病虫害発生概況および植物防疫事業概要をまとめた。

### I 平成 17 年の天候経過の概要

冬期間（平成16年12月～平成17年2月）の経過は、12月中旬までは冬型の気圧配置がほとんど現れず暖かな日が続いたが、12月下旬頃から冬型の気圧配置が強まり寒気が入った。その後は日本付近を低気圧や前線が通ることが多く、低気圧に向かって暖気が入り、通過後には寒気が入るなど、気温の変動が大きかった（図-1参照）。また、低気圧がしばしば日本付近を通過したことから太平洋側の地方でも雨や雪となるなど全国的に降水量は平年を上回り、日照時間は平年を下回った。北日本日本海側では、冬型の気圧配置による降雪に加え、低気圧の通過に伴う降雪もあり、降雨量は平年を上回った。

春期間（3～5月）の経過は、3～4月にかけて天気は短い周期で変化し、気温の変動が大きかった。5月はオホーツク海高気圧が出現し、北日本を中心に寒気の影響を受け、低温・寡照となった。春の平均気温は、西日

本では高かったものの、東日本は平年並み、北日本と南西諸島では低くなるなど地域差が大きかった。降水量は、北日本日本海側を除き少雨となり、特に東日本太平洋側および西日本ではかなり少なかった。

梅雨入りは南西諸島を除き平年よりも遅く、特に九州南部、北陸、東北北部では平年より2週間程度遅かった。6月は梅雨前線が南西諸島から本州南岸に停滞することが多く、南西諸島では記録的な多雨となった。梅雨明けは沖縄地方で4日遅い6月27日ごろ、また、東北地方では10日程度遅い8月4日ごろとなった。その他の地方の梅雨明けは、ほぼ平年並みか早かった。

夏期間（6～8月）の経過は、7月前半にオホーツク海高気圧の影響を受けた北日本で7月の月平均気温が低くなったほかは、ほぼ全国的に平均気温は平年を上回った。降水量は、梅雨前線が停滞した南西諸島では記録的な多雨となった。東日本太平洋側の一部と西日本では、6月の降水量が記録的に少なく4月以降の少雨による渇水状況が続いた。その後、7月前半を中心に梅雨前線の活動が活発となり多雨となったものの、梅雨明け後の西日本では太平洋高気圧に覆われ再び少雨となり、四国地方を中心に渇水状況が続いた。台風の発生は10個、上陸は2個で、ともに平年程度であった。台風7号と台風11号がともに千葉県に上陸した。

秋期間（9～11月）の経過は、9月は太平洋高気圧の日本付近への張り出しが強く、全国的に高温となった。10月に入って太平洋高気圧の張り出しは弱まったものの、日本付近は寒気の入りにくい大気の流れが続き、暖かな日が続いた。11月上旬の終わりごろから下旬初めにかけ、日本付近に寒気が入り、北・東日本を中心に一時気温は平年を下回った。9、10月と高温が著しかったことから、秋の平均気温は全国的にかなり高かった。降水量は、台風14号や11月に低気圧の影響を受けた西日本の一部および北日本日本海側で平年を上回った。その他の地域では、降水量が平年を下回り乾燥傾向の天候が続いた。台風の上陸は1個の平年程度で、台風14号が九州西岸に上陸した。

### II 病虫害発生の概要

昨年は春先に気温の変動の大きな状況が続いたことから、病虫害の発生は平年より遅くなった。その後、5月

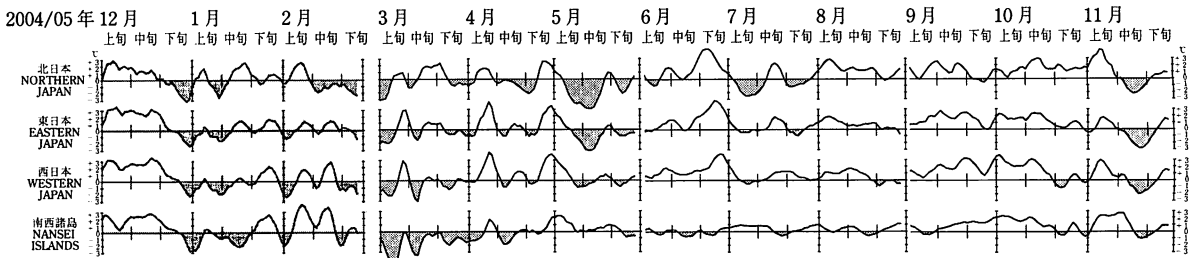


図-1 地域別平均気温年差の経過 (5日移動平均) : 気象庁報道発表資料から抜粋

以降の少雨、夏期間の平均気温が全国的に高く推移したことから、害虫の発生には好適な気象条件となり、水稻では、斑点米カメムシ類およびトビイロウンカ、果樹のハダニ類、大豆・野菜・花きのハスモンヨトウの発生が多くなった。

各作物ごとの主要な病害虫の発生概況については、次のとおりである。

### 1 水稻病害虫

病害では、いもち病について6月下旬から7月中旬にかけて北海道、東北および甲信の一部地域で感染に好適な気象条件が出現したことから、早期防除が呼びかけられた。その後、病徴が進展した地域では、葉いもち病斑が多くなり、7月中旬から下旬にかけて北海道と長野県で注意報が発表され、防除の徹底が呼びかけられた。8月に入り晴れの日が多く高温になったため病勢は抑制され、その後も天候による影響が少なかったことから、全国的に発生面積は低く抑えられた。いもち病に関する注意報は2件発表されたが、適期防除が行われたことから、大きな問題とはならなかった。

紋枯病の発生は、北日本を除き全国的に6～9月の気温が高かったことから、平年並みからそれ以上の地域が多かった。7月下旬には中国の一部地域で紋枯病の発生が多くなり上位葉への進展が懸念されたことから、鳥取県と広島県で注意報が発表され、出穂前の防除の徹底が呼びかけられた。鳥取県の一部で発生が多かったものの、中国地方の他県では被害は軽微で、収穫量が減収となる事態には至らなかった。

水稻の病害対策では、健全種子の確保が重要である。いもち病やもみ枯細菌病等の種子伝染性病害の発生が認められた本田からの採種を避けるとともに、育苗前に塩水選により健全種子を選別するように努め、種子消毒を徹底する必要がある。なお、育苗箱施用薬剤の選定にあたっては、一部の薬剤に対しいもち病耐性菌が出ているので、都道府県病害虫防除所で発表されている耐性菌の分布情報を参考にして効果的な薬剤の選定に努めていただ

きたい。

害虫では、ウンカ類の初飛来が4月19日に九州南部(セジロウンカ1頭)で確認され、続いて4月27日ごろに九州北部に飛来があった。6月中旬には九州から東海までの地域と南関東で飛来が確認された。その後、梅雨前線の活動が活発になった6月下旬から7月中旬にかけては、セジロウンカが北陸、東北南部まで飛来するとともに、トビイロウンカの大量飛来が九州で確認された。トビイロウンカは増殖力が高く、昨年は飛来量が平年より多かったこと、また、飛来後の天候(高温・少雨)が増殖に好適な条件となったことから、九州全域および中国の一部で発生が多くなった。

後期害虫の斑点米カメムシ類は、6月上旬ごろから水田周辺の雑草地で発生量が多くなり、6月中旬から注意報が発表され、8月末までの間に警報が2件、注意報が20府県から延べ23件発表された。昨年は夏期間に高温となったことから、カメムシ類の発生動向は活発となり、水田内への侵入は平年より多かった。

### 2 その他普通作物病害虫

麦では、4月中下旬、開花期から出穂期を迎えた地域で、赤かび病の発生に注意が呼びかけられた。4月下旬から6月上旬にかけて注意報が2件発表され、適期防除が行われた地域では赤かび病の発生が平年より少なく抑えられた。

大豆では、夏期間の高温と9月の残暑が害虫の発生に好適となったため、全国的にハスモンヨトウの発生が多くなり注意報が6件発表された。また、吸実性カメムシ類は8月から発生が多くなりはじめ、8月中旬に山口県で注意報が発表された。その後も9・10月の気温が平年より高かったことから、10月に入っても発生が多く、10月中旬に福岡県で注意報が発表された。

### 3 果樹病害虫

病害では、かんきつかいよう病の越冬病斑が多かったことから、3月初旬に愛媛県で注意報が発表され、7月末までに9県から延べ10件の注意報が発表された。そ

表-1 病害虫発生・防除状況（平成 17 年 12 月 13 日現在の集計結果）

（単位：千 ha，％）

病害虫名	概 評	発生面積	延べ防除面積	ハダニ類	東北でやや多い～多い。	8	58
(イネ)				(ナシ)			
葉いもち	東北及び甲信の一部で多い，他平年並以下。	294	1,182	黒斑病		2	39
穂いもち		163	1,278	黒星病	関東南部で多い。	4	142
紋枯病	中国の一部で多い。	568	704	ナシヒメシンクイ	中国の一部で多い。	2	55
白葉枯病		12	35	ハダニ類	全国的にやや多い。	5	34
ばか苗病	東北の一部でやや多い。	7	809	カメムシ類	九州南部で多い。	1	16
縞葉枯病		19	0	アブラムシ類		7	42
もみ枯細菌病		32	94	(モモ)			
稲こうじ病		68	53	せん孔細菌病	東海及び近畿の一部で多い。	3	41
ニカメイガ		98	459	灰星病		1	40
セジロウンカ		605	1,131	(ブドウ)			
トビイロウンカ	九州，中国及び四国の一部で多い。	148	826	晩腐病	関東南部及び甲信の一部でやや多い。	2	48
ヒメトビウンカ		521	998	べと病		4	62
ツマグロヨコバイ	北陸の一部で多い。	538	850	灰色かび病		1	30
イネハモグリバエ		1	5	(カキ)			
イネドロオイムシ		133	517	うどんこ病		6	39
斑点米カメムシ類	東北，北陸，近畿，中国及び九州南部で多い。	455	1,380	落葉病類		5	41
アワヨトウ		6	48	カメムシ類		2	18
コブノメイガ		227	381	カキグダアザミウマ		2	19
イネミズゾウムシ		540	749	(チャ)			
(ムギ類)				炭そ病		25	79
さび病類		16	299	チャノコカクモン	関東の一部で多い。	15	56
うどんこ病		59	258	ハマキ			
赤かび病	東北の一部でやや多い。	29	551	カンザワハダニ	関東南部，東海及び近畿の一部で多い。	34	80
雪腐病類		52	96	(キュウリ)			
(ジャガイモ)				べと病		5	31
疫病		8	388	うどんこ病		4	28
(ダイズ)				(スイカ)			
紫斑病		6	40	つる枯病		3	22
べと病		36	0	(ハクサイ)			
葉焼病		21	0	軟腐病	関東北部でやや多い。	1	19
アブラムシ類		25	30	白斑病		2	12
ハスモンヨトウ	西日本を中心にやや多い～多い。	35	70	(キャベツ)			
ハダニ類	全国的にやや多い。	7	1	黒腐病		2	19
カメムシ類	全国的にやや多い。	31	57	コナガ	全国的にやや多い。	7	43
(カンキツ類)				(タマネギ)			
そうか病		7	60	べと病		1	11
黒点病		35	182	(野菜共通)			
かいよう病	近畿，中国，四国及び九州の一部で多い。	21	74	疫病	トマトでやや多い。	1	13
ヤノネカイガラムシ		2	51	灰色かび病		3	21
ミカンハダニ	西日本を中心にやや多い～多い。	29	153	アブラムシ類	全国的にやや多い。	15	141
カメムシ類	九州の一部で多い。	7	26	ハダニ類	全国的にやや多い。	7	42
(リンゴ)				ハスモンヨトウ	全国的にやや多い～多い。	2	20
モニリア病		4	7	ヨトウガ		4	35
腐らん病		4	33	(キク)			
斑点落葉病	東北南部で多い。	9	130	白さび病		1	9
黒星病		1	93	アザミウマ類	全国的にやや多い。	1	8
ハマキムシ類		4	64	アブラムシ類		1	6

表-2 平成17年発生予察情報(警報・注意報・特殊報)の発表状況

(1) 警報・注意報(注:数字は発表年月日,斜体アンダーラインは警報)

(12月1日現在)

①イネ		葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米カメムシ類	コブノメイガ	その他の病害虫
北海道		7/14					
東北	青森				8/2		
	岩手 宮城 秋田 山形 福島				7/15, 7/29, <u>8/10</u> 7/8, <u>7/26</u> 7/14 7/14, 8/12		
関東	茨城						フタオビコヤガ: 8/4 トビイロウンカ: 8/11
	栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡県			7/28			
北陸	新潟				7/15		セジロウンカ: 7/22 ツマグロヨコバイ: 7/22
	富山 石川 福井				7/14 7/12 6/29		
東海	岐阜 愛知 三重				7/29		イネクロカメムシ: 7/1
近畿	滋賀				7/20		
	京都 大阪 兵庫県 奈良 和歌山				7/22		
中国四国	鳥取				8/1 7/20		紋枯病: 7/28
	岡山 広島 山形 徳島 香川 愛媛 高知				7/13, 7/29 8/3 7/15 8/22 7/13		紋枯病: 7/29
九州	福佐						トビイロウンカ: 9/1 トビイロウンカ: 8/1, 9/15
	岡賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島				6/14		
沖縄							

②畑作 (イネを除く)		ハスモンヨトウ	その他
北海道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		赤かび病：6/10 (小麦)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		
北陸	新潟 富山 石川 福井		赤かび病：4/26 (大麦)
東海	岐阜 愛知 三重		
近畿	滋賀 京都 大阪 奈良 和歌山	9/2 (ダイズ)	アブラムシ類：6/23 (豆類), ウイルス病：6/23 (豆類)
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	8/28 (ダイズ, ソバ) 9/1 (ダイズ, ソバ) 9/1 (ダイズ)  6/17 (サツマイモ) 9/29 (ダイズ)  8/8 (ダイズ)	カメムシ類：8/16 (ダイズ) ハダニ類：6/17 (サツマイモ)
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		カメムシ類：10/11 (ダイズ)
沖縄			イモキバガ：7/29 (さつまいも)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他
北 海 道			
東 北	青森		モニリア病：4/15 (リンゴ) ナミハダニ：8/10 (リンゴ)
	岩手 宮城 秋田 山形 福島		腐らん病：5/31 (リンゴ), 黒星病：5/31, 6/28 (ナシ)
関 東	茨城		黒星病：5/26 (ナシ)
	栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡		チャノコカクモンハマキ：7/1 (茶)
北 陸	新潟 富山 石川 福井		
東 海	岐阜 愛知 三重		せん孔細菌病：6/3 (モモ)
近 畿	滋賀		アザミウマ類：6/9 (イチジク)
	京都 大阪 兵庫県 奈良 和歌山		かいよう病：6/30 (カンキツ)
中 国 四 国	鳥取		シンクイムシ類：9/6 (ナシ)
	島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知		せん孔細菌病：5/25 (モモ) かいよう病：6/10 (ネーブル, レモン等) かいよう病：6/2 (カンキツ)  かいよう病：3/1, 7/6 (カンキツ)
九 州	福岡	10/12 (果樹全般)	カンザワハダニ：6/29 (茶)
	佐賀 長崎	9/26 (温州ミカン等)	かいよう病：7/6 (カンキツ) かいよう病：7/15 (カンキツ), クワシロカイガラムシ：7/5 (茶), チャノキイロアザミウマ：7/5 (茶)
	熊本 大分 宮崎		かいよう病：6/30 (カンキツ), ミカンハダニ：9/2 (カンキツ) ミカンハダニ：6/28 (カンキツ類) かいよう病：7/25 (カンキツ), ミカンハダニ：4/27 (温州ミカン, 中晩カンキツ類), チャノキイロアザミウマ：7/1 (茶), 7/25 (カンキツ), クワシロカイガラムシ：4/27, 7/6 (茶)
	鹿児島	9/27 (カンキツ, ナシ, カキ)	かいよう病：6/23 (カンキツ)
沖 縄			

④野菜		ハスモンヨトウ	その他
北海道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	9/22 (アブラナ科野菜)	コナガ：5/27 (キャベツ)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡		褐斑病：3/2 (キュウリ) オオタバコガ：8/30 (野菜共通), シロイチモジヨトウ：7/12 (野菜共通) キュウリ黄化えそ病：6/9 (キュウリ) ハイマダラノメイガ：8/26 (アブラナ科野菜) 灰色かび病：4/21 (トマト), 葉かび病：4/21 (トマト) オオタバコガ：7/15 (野菜共通) オオタバコガ：7/28 (野菜共通), ナモグリバエ：5/24 (レタス)
北陸	新潟 富山 石川 福井		
東海	岐阜 愛知 三重		トマト黄化葉巻病：8/11 (トマト), 灰色かび病：8/29 (トマト), コナガ：5/30 (アブラナ科野菜), ハダニ類：11/11 (イチゴ) ハダニ類：11/1 (イチゴ)
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫県 奈良 和歌山	9/2 (アブラナ科野菜)	アブラムシ類：6/23 (野菜共通), ウイルス病：6/23 (野菜共通) ミカンキロアザミウマ：6/24 (ナス) ハイマダラノメイガ：8/10 (アブラナ科野菜) ハイマダラノメイガ：8/19 (アブラナ科野菜) トマト黄化葉巻病：8/23 (トマト, ミニトマト)
中国四国	鳥取 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	8/26 (野菜共通) 9/1 (アブラナ科野菜) 10/14 (野菜共通) 6/17 (野菜共通) 9/29 (野菜共通)	シロイチモジヨトウ：9/1 (ネギ), ハダニ類：6/17 (野菜共通) トマト黄化葉巻病：8/22 (トマト, ミニトマト) シルバーリーフコナジラミ：3/16 (ナス, ピーマン, シシトウ, トマト), 11/4 (果菜類), トマト黄化葉巻病：10/4 (トマト)
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		コナジラミ類：11/17 (野菜共通), ハダニ類：11/1 (イチゴ) べと病：3/24 (タマネギ), ハダニ類：3/28 (イチゴ) ハダニ類：1/18 (イチゴ) メロン黄化えそ病：9/29 (メロン, キュウリ) うどんこ病：7/19 (野菜共通), シロイチモジヨトウ：8/1 (ネギ), うどんこ病：10/25 (イチゴ) シルバーリーフコナジラミ：7/6 (トマト), シルバーリーフコナジラミ・タバココナジラミバイオタイプQ：10/25 (野菜共通), トマト黄化葉巻病：7/6, 10/25 (トマト, ミニトマト), ハダニ類：10/25 (イチゴ), うどんこ病：10/25 (イチゴ) トマト黄化葉巻病：3/1, 6/16 (トマト, ミニトマト), コナジラミ類：11/2 (トマト, ピーマン, キュウリ, サヤインゲン), 灰色かび病：3/3 (トマト, キュウリ, イチゴ, ナス, インゲン), 菌核病：3/3 (トマト, キュウリ, イチゴ, ナス, インゲン)
沖縄			灰白色斑紋病：5/30 (スイカ)

⑤花き類		ハスモンヨトウ	その他
北 海 道			
東 北	青 森 岩 手 宮 城 秋 田 山 形 福 島	9/22 (花き共通)	
関 東	茨 城 栃 木 群 馬 埼 玉 千 葉 東 京 神 奈 川 山 梨 長 野 静 岡		オオタバコガ：8/30 (花き共通), シロイチモジヨトウ：7/12 (花き共通)  オオタバコガ：7/15 (花き共通) オオタバコガ：7/28 (花き共通)
北 陸	新 潟 富 山 石 川 福 井		
東 海	岐 阜 愛 知 三 重		
近 畿	滋 賀 京 都 大 阪 兵 庫 奈 良 和 歌 山	9/2 (花き共通)	アブラムシ類：6/23 (花き共通), ウイルス病：6/23 (花き共通)  ハイマダラノメイガ：8/19 (ハボタン)
中 国 四 国	鳥 取 島 根 岡 山 広 島 山 口 徳 島 香 川 愛 媛 高 知	10/14 (花き共通)  9/29 (花き共通)  8/8 (花き共通)	シルバーリーフコナジラミ：11/4 (花き共通)
九 州	福 岡 佐 賀 長 崎 熊 本 大 分 宮 崎 鹿 児 島		シルバーリーフコナジラミ・タバココナジラミ バイオタイプQ：10/25 (花き共通)
沖 縄			



## (2) 特殊報

(12月1日現在)

		①普通作	②果樹類	③野菜類 (花き類含む)
北海道				7/12 : ピーマンのピーマンモザイク病
東北	宮城			11/21 : キュウリのホモブシス根腐病
	福島			8/12 : リンドウの炭疽病
関東	茨城		9/16 : チャのクワシロカイガラムシ 10/14 : ナシのサクセスキクイムシ	7/5 : メロンの果実汚斑細菌病
	栃木			7/14 : リンドウの炭疽病
	埼玉			2/17 : トマトの黄化葉巻病
	千葉			5/19 : キュウリの黄化えそ病
	東京			10/19 : トマトの黄化葉巻病
	神奈川			7/28 : インパチエンス, プリムラの INSV による病害, 10/31 : ハイビスカス, オクラのフタテンミドリヒメヨコバイ
関東	長野		6/6 : シクラメンのシクラメンえそ斑紋病, TSWV による病害	
	静岡	3/29 : リンゴのスモヒメシンクイ 6/2 : かんきつのアカマルカイガラムシ	9/12 : スイカの果実汚斑細菌病	
			1/14 : キャベツのケブカノメイガ	
東海	岐阜	7/20 : サツマイモのアワダチソウゲンバイ		7/8 : トマトのすすかび病, キクのアワダチソウゲンバイ
	愛知			1/7 : キャベツのケブカノメイガ, 4/28 : トマトのすすかび病, 6/16 : キュウリ黄化えそ病, 7/20 : ペコニアのえそ斑紋病, キク, ヒマワリのアワダチソウゲンバイ, 9/1 : ニンジンのキクノネハネオレバエ, 11/25 : トルコギキョウの葉巻病 (TYLCV)
東海	三重	6/10 : サツマイモのアワダチソウゲンバイ	10/5 : ミカン (早生温州) のミナミトゲヘリカメムシ	6/10 : ヒマワリのアワダチソウゲンバイ, トルコギキョウのえそ輪紋病, 7/7 : バラのバラハオレタマバエ
近畿	滋賀	6/14 : サツマイモのアワダチソウゲンバイ		4/19 : キクのアワダチソウゲンバイ, 6/24 : イチゴの角斑細菌病
	京都	6/14 : サツマイモのアワダチソウゲンバイ	6/14 : チャのミカントゲコナジラミ	6/14 : キク, ヒマワリのアワダチソウゲンバイ
	大阪			3/22 : キク, ヒマワリのアワダチソウゲンバイ, 10/31 : トマトの黄化葉巻病
近畿	奈良			5/12 : キク, ヒマワリ等のアワダチソウゲンバイ, バラのバラハオレタマバエ, 11/1 : パンジーのナスコナカイガラムシ
中国	鳥取	9/12 : サツマイモのアワダチソウゲンバイ		9/12 : ヒマワリ, キクのアワダチソウゲンバイ
	島根	9/1 : サツマイモのアワダチソウゲンバイ		9/9 : トマトの黄化萎縮病
	岡山	6/23 : サツマイモのアワダチソウゲンバイ	1/31 : ナシのヒメボクトウ	7/5 : トマトの黄化葉巻病
	徳島			6/23 : ヒマワリ, ナスのアワダチソウゲンバイ, 9/1 : トマトの黄化萎縮病
	香川			3/7 : ポトス, モンステラのクリバネアザミウマ, 3/10 : トマトの黄化葉巻病, 8/25 : キクのアワダチソウゲンバイ
中国	愛媛			3/29 : イチゴの斑点細菌病
	高知		11/7 : イチジクのイチジクヒトリモドキ	3/31 : ピーマンの退緑斑紋病 (仮称), 10/27 : トルコギキョウの葉巻病 (TYLCV), 11/7 : セイタカアワダチソウのアワダチソウゲンバイ
九州	福岡			1/5 : キュウリの黄化えそ病
	佐賀			3/30 : ニガウリのアシビロヘリカメムシ, アスパラガスの軟腐病, 10/17 : ニガウリの青枯病
	長崎			1/17 : キュウリの黄化えそ病, 黄化病, 5/20 : スイカの果実汚斑細菌病, 11/7 : トマト, ミニトマト, メロンのタバココナジラミバイオタイプ Q
	熊本			11/14 : キュウリ黄化えそ病
	大分	5/20 : イネ, ムギ, ダイズのミナミアオカメムシ		10/7 : トマト, ミニトマト, 野菜類のタバココナジラミバイオタイプ Q
九州	宮崎	10/7 : サツマイモのタバココナジラミバイオタイプ Q		3/17 : キュウリの黄化えそ病
	鹿児島		4/19 : カンキツのウスコカクモンハマキ, 6/6 : チャのチャ斑点細菌病	1/24 : ピーマンの黒枯病, 3/2 : クルクマ・シャロームのバイナッブルコナカイガラムシ
沖縄				

の後、夏期間に晴れた日が多かったことから、病害の進展は抑制され大きな被害にはならなかった。ここ数年、西日本を中心に本病害が多発する傾向にあることから、これからの管理作業として罹病枝の剪除・園外への除去・焼却または土中に埋めるなどの確な処分が必要となる。また、なし黒星病の注意報が3件、ももせん孔細菌病の注意報が2件発表された。

害虫では、果樹カメシ類は、越冬量が少なかったこと、カメシ類の餌となるスギ・ヒノキの球果の着果量が多かったことから、山林からの離脱が遅くなり果樹園への飛来は8月下旬まで少なかった。9月中旬以降から九州の一部地域で果樹園への飛来が見られるようになり、9月下旬に長崎県と鹿児島県で、10月に福岡県で注意報が発表された。そのほか、ハダニ類が高温・少雨の気候により発生が助長され、平年より早い時期からミカンハダニ、ナミハダニの発生に注意が呼びかけられた。

#### 4 野菜および花き

病害では、梅雨前線による北陸を中心とする豪雨や台風の通過した地域では、その後の病害の発生に注意が呼びかけられた。また、トマト黄化葉巻病について、注意報が8件発表され総合的な防除の取り組みが呼びかけられた。本病害は、シルバーリーフコナジラミおよびタバココナジラミにより伝搬されるウイルス病であるため、これらのコナジラミ類の発生を防止することが重要である。

野菜では、最近になってアザミウマ類およびコナジラミ類が伝搬するウイルス病の発生が多くなり、大きな問題となっている。これらの害虫の防除では、①施設に入れない、②増やさない、③施設から出さないという三つの基本事項を励行することが重要である。①施設に入れない対策としては、施設開口部への防虫ネットの設置、ウイルス無病苗の定植があげられる。②害虫を増やさない対策としては、害虫の生息場所となる雑草の定期的な除草、ウイルス罹病株の早期発見・早期処分、害虫の早期発見・初期防除、③施設から出さない対策としては、栽培終了後のハウスの蒸し込み処理があげられる。また、これらの害虫は、薬剤への抵抗性を発達させやすいので、同一薬剤の連用を避けることが必要となる。

害虫では、野菜および花きの共通害虫であるハスモンヨトウの発生が、8月以降ほぼ全国的に多く見られ、10月末までに注意報が9件発表された。また、オオタバコガの発生が7月から多くなり、注意報が3件発表され防除が呼びかけられた。春先から発生が多めに推移していたコナガに関して注意報が2件発表され、夏期間にはハイマダラノメイガの発生が多くなり、注意報が3件発表

された。そのほか、シロイチモジヨトウ、ハダニ類などの害虫の発生に注意が呼びかけられた。

### III 病虫害防除事業

#### 1 ウリミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島、沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において不妊虫放飼による再侵入防止対策を実施している。

#### 2 ミカンコミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島、沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において誘殺剤散布による再侵入防止対策を実施している。

#### 3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄および小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施している。

#### 4 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県においてイモゾウムシおよびアリモドキゾウムシを対象にして不妊虫放飼などによる根絶防除を継続して実施している。

表-3 平成17農薬年度農薬出荷状況(推定)

(単位:千t,千kl 億円,%)

用途	平成16農薬年度 出荷実績	平成17農薬年度(推計)	
		出荷	対前年比
殺虫剤	数量	87	101.1
	金額	1,012	100.7
殺菌剤	数量	57	93.0
	金額	821	97.1
殺虫殺菌剤	数量	30	86.7
	金額	345	94.8
除草剤	数量	63	96.8
	金額	1,053	97.4
その他	数量	7	100.0
	金額	114	107.9
合計	数量	244	96.3
	金額	3,344	98.4

出典:農産安全管理課農薬対策室

#### IV 農林水産航空事業等

本年度の農林水産航空事業の農業関係延べ実施面積は、2,786千haとなる見込みである。

剤型別では、液剤113千ha、液剤少量43千ha、微量剤104千ha、粒剤6千ha、粒剤少量34千ha、その他（不妊虫等）2,485千haとなった。

本事業の基幹である水稻部門は、実施延べ面積288千haであり、畑作・果樹部門では麦、大豆、粟等の病害虫防除が10千haであった。畜産部門は牧野の施肥等

が4千haであった。ミバエ部門はミバエ類の侵入防止対策等が行われ、2,484千haであった。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、704千haで対前年を6%上回る見込みとなっている。

#### V 農薬の出荷状況

平成17農薬年度（平成16年10月～平成17年9月）における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では3.4%減の235千t、金額では1.3%減の3,292億円程度と推定される。

### 社団法人 日本植物防疫協会の発行図書のご案内

★内容一新、より使いやすくなりました★

## 農薬ハンドブック2005年版（改訂新版）

本書は、わが国の登録農薬の簡便な解説書として1967年に初版を刊行して以来、2001年版まで11版を重ね、これまで幅広い関係者に愛用されてきました。

2005年版（改訂新版）においては、これまでの体裁を大幅に改めて内容を一層充実致しました。具体的には、現在登録されている農薬成分を収載し、機能別に分類するとともに、各農薬についてはその名称、化学構造式、物理化学性、作用特性および安全性の情報などを分かりやすく記載し内容を一新しました。

社団法人 日本植物防疫協会 編 A5判 本文約840ページ 布表紙  
定価10,500円税込み(本体10,000円) 送料サービス

## 農薬適用一覧表 2005年版

(平成17年9月30日現在)

独立行政法人 農薬検査所 監修

日本国内で登録されている農薬を一覧表にして紹介。  
掲載項目 適用作物ごとに農薬名（一般名、商品名）、使用時期、使用量、対象病害虫・雑草、（使用目的）等  
定価 13,650円（税込み） 送料サービス

## 農薬要覧 2005年版

農林水産省 消費・安全局 植物防疫課 監修

日本国内で登録されている農薬に関する情報を中心に植物防疫関連統計を掲載した総合的な資料集。  
掲載項目 生産実績：種類別、製剤形態別、毒性別等  
流通、出荷実績：県別、種類別  
定価 7,560円（税込み） 送料サービス

お問い合わせとご注文は 〒 170-8484 東京都豊島区駒込1-43-11 社団法人 日本植物防疫協会  
TEL 03-3944-1561 FAX 03-3944-2103 郵便振替口座 00110-7-177867 ホームページ <http://www.jpnn.ne.jp/nishokubo>